

創造・誇り・愛！ 輝く七中 煌めけ生徒！！

立川市立立川第七中学校

校長 水越 伸朗

学校だより

第11号

令和6年3月18日



七中 HP URL



とちのき

〒190-0034 東京都立川市西砂町 6-28-3

TEL (042) 531-0511 FAX (042) 531-6103

お互いを認める

～卒業式式辞より

校長 水越 伸朗

今日は、立川第七中学校の卒業証書授与式です。今までの三年間の思いを胸に、卒業生が新たな道に進んでいきます。会場となった昭島市のフォスターホールは、静寂に包まれ、凜とした雰囲気なかで式が行われました。在校生や地域の皆様方は、参列することができませんでしたが、立派な態度で式に臨んだことをお伝えします。

本日、卒業証書授与式を挙行できたのも、保護者、地域の皆様方のご支援のおかげです。あらためて感謝申し上げます。ありがとうございました。

<前略>

このように、今まで、立川第七中学校の最上級生として活躍してきた皆さんの、今後の人生に向けて、人として大切な「お互いを認め合う」ことについて、お話いたします。

3年前に開催された東京オリンピック。陸上競技の男子走り高跳び決勝での出来事です。カタールのバルシム選手とイタリアのタンベリ選手が、1回も失敗することなく、2m37cmまで跳んで1位に並んでいました。続く試技では、ともに3回失敗して、決着はつきませんでした。すでに競技が始まって2時間以上経過しており、二人とも疲れた状態です。勝負の行方は、優勝が決まるまでお互いに1回ずつ跳躍する「ジャンプオフ」にもつれ込むものと思われました。しかし、審判員が「ジャンプオフをやりますか？」と問いかけると、バルシム選手は「金メダルを2つもらえないか」と問い返します。すると審判員は「可能です」と答えたのです。大会側がこれを受け入れたのです。二人はうなずきあい、バルシム選手が語りかけ、お互いの金メダルを認めました。両選手は1位を決めることよりも、五輪チャンピオンのタイトルを分け合うことを決めたのです。二人は金メダルが確定すると抱き合って喜び、それぞれが国旗を頭の上に掲げ、コーチやチームメイトと一緒にスタジアム内を走りました。スポーツパーソンシップを象徴したこの瞬間は、全世界から大きく称えられたのです。

二人は競技を離れると大変親しい友人でもあり、お互いを認め合う存在だということです。ですから、激戦の末にもお互いを認め、お互いの健闘を称え合い、揃って金メダルを獲得したのだと思います。

皆さんは、今までの15年間、様々なことを経験し知識を身に付けてきました。これから先の長い人生においても、文化、芸術、政治、経済、国際情勢など、多種多様な知識を得ていくとともに、社会の一員として、様々な経験をすることと思います。その人生において、大切にしてもらいたいのが「お互いを認める」ことです。認めることができれば、困難な状況や厳しい場面にあったとしても、お互いに支え合い、克服することができるはずです。

目まぐるしく発展していく現代社会。今後も社会は大きく進化を遂げていくことでしょう。しかし、どんなに社会が発展しようとも、どんなに進歩しようとも、「お互いを認める」ことが社会の支えとなることに変わりはないと思います。皆さんは、これからの日本を支えていく存在として、「お互いを認める」ことを大切にして、大きく成長してってください。

<後略>